

外国人との共生、いま求められることとは？

外国人向けの語学教室や介護サービスなどを展開している神戸定住外国人支援センター（KFC）、神戸市長田区（の金富吉理事長（62）は、阪神・淡路大震災以後の30年、言葉の壁に悩み、差別を受けた外国人の話に耳を傾け、是正に向けて行動してきた。今、交流サイト（SNS）には外国人への差別感情を煽る動画や投稿にあふれ、国内各地でデモが起きている。金さんは「さまざまな人種の外国人がいなければ成り立たなかった国際都市、神戸の歴史から学ぶことは多い」と、他者を排除しないことの大切さを訴える。

（杉山雅崇）

神戸で30年。振り返ってみていかがですか。

「阪神・淡路大震災では、たくさんの外国人が支援を受けられない事態に直面しました。苦境にある外国人を助きたいという思いを共有し、多くの人たちに支えられてここまで来ることができました。ただ、『災害が起きて外国人が苦勞した』という受け止め方には、これまでの歴史を振り返ると違和感を覚えますね」

「というのも、災害前から差別があったからです。戦前からいる在日コリアンも、ベトナム戦争から逃れて来日したベトナム人も、震災前から困難に直面していました。部屋を貸してもらえない。奨学金を受けられない。仕事に採用してもらえない。行政が外国人向けの支援に関する案内をしなかったことも問題ですが、外国人差別は震災による一過性の悲劇ではありません。災害で見えやすくなっただけなのです。震災前の外国人に、平和な日常があったわけではないのです」

震災前から地続きの問題だということですかね。

「へん『災害前』と『災害中』と」

ですが、あの悲劇に直面した後、助け合いで市民の連帯感が生まれました。そして、震災前とは違った新しい社会をつくっていくという機運も。私たちの理念は、Identity（自分らしさを大切に）、Communication（人と心を通い合わせる）、Equality（全ての人の平等）、Rights（人権の実現）、Life（命のかがやき）です。震災を契機に外国人も生きやすい社会を目指すべく、いろいろな活動をやってきました」

「フランスの作家カミュに、ペストが流行するアルジェリアを舞台にした『ペスト』という作品があります。新型コロナウイルスの感染が拡大した際、話題になりましたね。難解ですが、登場人物からじみ出るのは『流行前の安寧な暮らしを取り戻したい』という思いです。阪神・淡路でもそういった思いは広がりましたが、外国人が置かれていた状況を考えれば、前の社会に戻るのではなく、新しくつくらなければならなかった」

苦勞もあったようです。

「これを見てください。震災直後に私たちに匿名で送られてきた一枚の紙がです。『せまい日本、外国人はみんな日本から出ていけ』と」

っている（中略）外人の中でも、朝鮮人中国人を日本人は嫌います。クサイ民族だからです（中略）戸籍を買ってでも日本に住みたいらしいが、早くみんな日本から出て行け。直球のレイシズム（人種差別主義）です。当時は震災直後のエネルギーがあつたから気にしなかったけど、今送られてきたら傷つくでしょうね。こういった差別もありつつ、事業を続けてきました」

「私たちがやっている外国人向け介護サービスの利用者に差別を受けたいことがあるかを尋ねたことがありますが、多くのお年寄りは『ない』と答えるんです。でも質問をきっかけに記憶をたどってもらって、子どもが『チョーセン、チョーセン』とかにされたことがあるとか、幼少期に『朝鮮に帰れ』と言われたとか、ベトナム人だからアパートを貸してもらえなかったとか、いくつも体験談が出てきた」

「つまり、そういった周囲からの言動や扱いが日常化してきて、耐え忍ぶことを覚える。『日本で生きるということ』は、こういうものだ』と納得してしまふ。だから差別を差別と感じなくなっていたわけです。あの種の慣れというか、これは非常に憂慮すべきことだと思います」

KFCとしての、今後の目標はなんですか。

「外国人差別は社会として対応していかなければいけない。でも、今後も理不尽な目に遭う外国人は出てくる。くじける人もいっぱいいるでしょう。そういう人たちの盾になったり、逃げ場所になったりするような組織にならなければいけないと思います。組織を整備してから30年近くがたちますが、もう少し頑張らなければいけないですね」



神戸市長田区

レッテルが排外主義を加速／「神戸人」の矜持、再確認を

今年の参院選では「日本人ファースト」を掲げる政党が躍進し、ネット上では外国人排斥を訴える意見が拡散しています。

「私はお店と客のようなものだと考えています。ある日本人が行きつけの店に入ろうとしたら、そこに見慣れない外国人が座っていた。本来は自分が座るべき席なのに許せない、出ていってほしい。面白くないですね。そういった不安が広がっているのは、『失われた30年』などと呼ばれたバブル後の停滞と、将来への不安があるのでしょう。外国人が席（社会）に座らなければ、店（日本）自体がつぶれてしまふ、なんてことは考えられないわけです。参院選から今日までの世論も『あの政党なら、あの政治家なら、自分たちの席を守ってもらえ』というような期待感があつたのではないのでしょうか」

「交流サイト（SNS）も問題です。いまX（旧ツイッター）を開いて見てください。出所も真偽も不明な、特定外国人の犯罪を写したとされるショート動画や短文がたくさん出てきますよね。こういう内容はかり見ていると『〇〇人は危険』『〇〇人は犯罪者』などというレッテルを、特定人種や国籍の人間に貼ってしまふ。冷静に考えれば、犯罪に手を染める人間は日本人だろうが外国人だろうが、一定数いることが分かるはずなのに。特定の考え方が増幅、強化される『エコーチェンバー』が、排外主義を加速させていると思います」

排外主義にのまれず、外国人と一緒に社会をつくっていくためにできることはなんなのでしょうか。

「私たちが住んでいる神戸が、どうやって国際都市となっていたかを学ぶべきです。90年前にムスリムモスクが建設され、ユダヤ教徒のためのシナゴーグもある。外国人創業の企業もたくさんある。このまちには外国人がいたからこそ成り立ってきたんです。それは神戸に限らず、全国の多くの都市に当てはまるでしょう。さまざまな人種と宗教が交ざり合う風土をつくりあげた『神戸人』の矜持を、再確認しなければいけない時代なのだと思います」

キム・ソンギル 1963年神戸市長田区生まれ。社会福祉法人勤務を経て、阪神・淡路大震災後、被災外国人の支援活動始める。97年、神戸定住外国人支援センター（KFC）を設立。